



A 試合会場レポート

試合番号 983

開催日 2018/12/23

平成30年度 天皇杯・皇后杯 全日本バレーボール選手権大会 女子 ファイナルラウンド

会場：大田区総合体育館

観客数： 1,600	開始時間： 16:08	終了時間： 18:14	試合時間： 02:06	主審：種元 桂子	副審：佐々木 伸子
------------	-------------	-------------	-------------	----------	-----------

久光製薬スプリングス



監督：酒井 新悟
コーチ：大久保 茂和

通算： - 勝 - 敗
ポイント： -

3	35	第1セット 【 00:36 】	33	1
	20	第2セット 【 00:25 】	25	
	25	第3セット 【 00:27 】	23	
	26	第4セット 【 00:29 】	24	
		第5セット 【 】		

ポイント 【】内はセット時間 ポイント
- ()内は交代選手 -

トヨタ車体クインシーズ



監督：多治見 麻子
コーチ：印東 玄弥

通算： - 勝 - 敗
ポイント： -

<監督コメント>

決勝戦にふさわしい一時も気の抜けない試合であり、まずは両チームの選手達を讃えたい。皇后杯が開幕してから、ここまで来るまで決して楽な道のりではなかったが、昨年の悔しい思いがチームを奮い立たせ、その気持ちが優勝を決めた大きな力となった。スタートから出場した選手、途中出場した選手、チームを陰で支えてくれた選手、それぞれの役割を果たしてくれたことを誇りに思う。

平成最後の今大会の頂点に立ち、歴史に名を刻めたことを自覚し、また年明けから再開する新生Vリーグの頂点に向けてより完成度の高いチームを作っていくきたい。

本年度も久光製薬スプリングスの応援ありがとうございました。

35	古藤	アキンラデウォ	第1セット	ネリマン	荒木	33
	()	()		()	()	
	今村	石井		高橋	内瀬戸	
	(筒井)	()		(村永)	()	
	岩坂	新鍋		渡邊	山上	
	(加藤)	()		()	()	
リペロ： 戸江				リペロ： 榊原 佐藤		
20	古藤	アキンラデウォ	第2セット	村永	ネリマン	25
	()	()		()	()	
	今村	石井		渡邊	荒木	
	()	(筒井)		()	()	
	岩坂	新鍋		山上	内瀬戸	
	(加藤)	()		()	()	
リペロ： 戸江				リペロ： 榊原 佐藤		
25	古藤	アキンラデウォ	第3セット	ネリマン	荒木	23
	()	(中川)		()	()	
	今村	石井		村永	内瀬戸	
	(筒井)	()	()	(藪田)	()	
	岩坂	新鍋		渡邊	山上	
	(加藤)	()		()	()	
リペロ： 戸江				リペロ： 榊原 佐藤		
26	古藤	アキンラデウォ	第4セット	村永	ネリマン	24
	()	(中川)		(高橋)	()	
	今村	石井		渡邊	荒木	
	(筒井)	()	()	()	()	
	岩坂	新鍋		山上	内瀬戸	
	(加藤)	()		()	()	
リペロ： 戸江				リペロ： 榊原 佐藤		
	()	()	第5セット	()	()	
	()	()		()	()	
	()	()		()	()	
リペロ： 戸江				リペロ： 榊原 佐藤		

<監督コメント>

優勝を決める一戦を、チーム全員で心から今日という日を楽しもうと話して臨んだ。互いに粘りのあるディフェンス、強力なオフェンスで激しい攻防になった。久光製薬の優勝と素晴らしいプレーに心から賛辞を送りたい。

2018年もトヨタ車体への応援ありがとうございました。年明けのVリーグで更に成長した姿をお見せできるよう精進いたします。

<要約レポート>

二連覇を目指すトヨタ車体クインシーズと、2大会ぶりの優勝を目指す久光製薬スプリングスの決勝戦。

第1セット、久光製薬は石井、アキンラデウォのサーブでリードし、古藤がブロックを翻弄するトスワークで得点を積み重ねる。トヨタ車体はネリマン、渡邊、内瀬戸のサーブ、アタックで点差を縮め、同点に追いつきデュースに突入する。最後は久光製薬は石井が粘りのアタックを決め、30点を超える激闘のセットを先取る。

第2セット、トヨタ車体は渡邊、荒木の両センター陣が攻撃面で躍動しリードする。久光製薬は今村、石井、アキンラデウォのアタックで中盤に同点に追いつく。しかしトヨタ車体は、ブロックとレシーブを連携させ攻撃に繋ぎ3連続得点をあげて、再びリードしセットを取り返す。

第3セット、終盤まで一進一退の攻防が続く。最後は久光製薬は古藤のアタック、サービスエースでリードしセットを取る。

第4セット、久光製薬は、石井のサーブで相手を崩し、戸江を中心にレシーブをあげて攻撃しリードする。トヨタ車体は荒木がブロック3本を含む攻撃とネリマンのアタックで逆転し、第1セット途中から出場の村永のアタック、交代で入った高橋のブロックでリードする。しかし、久光製薬はアキンラデウォ、新鍋、石井の攻撃で同点に追いつき、このセットもデュースに突入すると、両者緊張感が漂う中、久光製薬は新鍋の好サーブで相手のレシーブを崩し得点をあげ、皇后杯を奪還した。

作成者：高澤 佳江